

男子思春期性教育に対する泌尿器科医の取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 並木, 幹夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/7557

思春期学 Vol24. No4 「男子思春期教育を考える」

「男子思春期性教育に対する泌尿器科医の取り組み」

金沢大学大学院医学系研究科集学的治療学（泌尿器科学）
並木幹夫

思春期世代（中、高校生）に対する性教育は、昨今の同世代での性感染症の増加を見ても明らかなように、十分な成果を上げているとは言えない。このような背景から、厚生労働省や文部科学省は21世紀初頭における母子保健のための国民運動計画である「すこやか親子21」を策定した。その中では、2010年までに高校生における性感染症の罹患率を減少傾向にすることと、性感染症を正しく知っている高校生を100%にするという数値目標が掲げられている。筆者は、この「すこやか親子21」推進協議会に日本泌尿器科学会代表として参加したのをきっかけに、思春期性教育・性感染症予防に深く関わるようになった。そして、この活動を通じて感じたことは、泌尿器科医がもっと積極的に思春期性教育・性感染症予防に取り組むべきであるということである。なぜなら、性感染症はいわゆる“ピンポン感染”を起こすため、男女ともに治療、予防の必要があることと、思春期男子の悩みは包茎やマスターベーションなどが多く、女性の養護教員や産婦人科医より、泌尿器科医の方が男子中、高校生に対する性教育には適していると考えるからである。しかし、実際教育現場に思春期性教育のために泌尿器科医が招聘されることは多くない。この理由として、教育現場が泌尿器科医の役割、必要性を認識していないことが挙げられるが、泌尿器科医側からの積極的なアプローチも少ないからと想像する。

そこで、思春期性教育・性感染症予防に取り組んでこられた全国の泌尿器科医に声をかけ、御参集いただき、情報を交換したり、泌尿器科医の活動について討議する場として、「思春期性教育・性感染症研究会」を組織した。まず、この問題に取り組んでこられた全国の泌尿器科医を調査し、各地区のリーダーになっていただける方に世話人（表1）を依頼し、平成17年4月東京で「第1回思春期性教育・性感染症研究会」を開催した。研究会では、まず各地での活動状況が紹介された。次に各地で泌尿器科医が学校現場で思春期性教育・性感染症予防についての講演を行う際に使用する教材・資料の共有化が合意された。なぜなら、時にこのような活動が“過激な性教育”だとされ、バッシングにあうことがあることと、我々としてもある程度のコンセンサスのある教材のみを使用した方が、今後の活動の発展にとって望ましいと考えたからである。そこで、教育用共通スライド作成のためのワーキンググループ（表2）が組織された。

この決定をうけて、ワーキンググループ委員は各自のスライドのベ数百枚を持ち寄り選別を行った。そして、提供をうけたスライドをカテゴリ別に分類した（表3）。この作業の中で、スライドのスタイルを統一し、教育現場で受け入れがたいと判断されたスライドを削除した。そして、今回のスライドの対象として、男女高校生、男子高校生、高校養護教諭として、それぞれの対象向けのスライドを、1時間授業としてまとまりのある内容に編集した。さらに、男女高校生約15名に作成したスライドを供覧し、内容や表現方法について感想

を求め、できるだけ平易で、視覚的に飽きないスライド作成をこころがけた。

「第2回思春期性教育・性感染症研究会」（平成17年10月、東京）および「第3回思春期性教育・性感染症研究会」（平成18年4月、福岡）で世話人に供覧した。この段階でUp-To-Dateデータやもっと医学的スライドを加えた方が望ましいとの意見に従い、修正を加え、最終版として「思春期の性と健康 ―性感染症から身を守るため―」（男女高校生用）、「思春期の性と健康」（男子高校生用）、「高校生を取り巻く性感染症の現状」（高校養護教員用）の3種類のスライドが完成した。このスライドは、各世話人には自由に使用していただき、世話人以外から使用の希望があった場合は、使用目的、対象を確認して提供することとした。

以上のように、全国的な泌尿器科医の連携が進んでいるが、今後は各世話人が各地区で、医療関係者、行政、教育現場との連携を深めることを活動方針としている。

泌尿器科の活動はまだ諸についたばかりですが、思春期学会の諸兄には、思春期性教育・性感染予防において、各地で表1に示す世話人のみならず、泌尿器科医と連携していただくよう誌面を通じてお願いします。